

大分大学医学部 先進医療科学科

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

1	学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	
(1)	学生の確保の見通し	
①	定員充足の見込み	2
②	定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	2
③	学生納付金の設定の考え方	5
(2)	学生確保に向けた具体的な取組状況	5
2	人材需要の動向等社会の要請	
(1)	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)	6
(2)	上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたもので あることの客観的な根拠	
①	社会的、地域的な人材需要の動向	7
②	卒業後の進路に関する調査結果の概要	8

1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

①定員充足の見込み

大分大学（以下「本学」という。）が新たに設置を計画している医学部先進医療科学科（以下「本学科」という。）が養成する人材は、医学・医療の基盤を支え、自然科学と社会科学の融合による「総合知」を創造し、イノベーション創出に発展させることのできる融合人材である。

本学科に、生命健康科学コース、臨床医工学コースの2コースを置き、生命健康科学コースでは、特に人の生命現象、健康と疾病及び臨床検査に関する広範な知識と技能を身につけ、それらを統合し、生命医科学の発展及び健康寿命の延伸に活用できる能力を修得し、臨床医工学コースでは、特に健康と疾病及び医工学、医療機器研究開発に関する広範な知識と技能を身につけ、それらを統合し、医学・医工学の発展及び健康寿命の延伸に活用できる能力を修得する。

本学科では、2コースそれぞれの領域の基本的な専門性を担保する教育課程をおきつつも、コースを横断した融合人材育成科目として「先進領域融合科目群」「国際力強化科目群」「未来創造キャリア・デザイン科目群」「医療マネジメント科目群」を配置し、融合人材能力、国際対応力、先進的な知識、医療マネジメントに関する知識・能力を修得することが可能なカリキュラムとなっている。

これら、本学科における養成する人材像、教育課程編成、教育方法、実習施設の確保、また、教室、演習、実習室などの物理的要因、さらには専任教員数等の関係から、総合的に判断した結果、本学科の入学定員及び収容定員を以下のとおり設定した。

この定員については、後述するアンケート調査の結果等から定員をはるかに上回る多くの入学希望者が見込まれるため、十分に確保できると考える。

<本学科の入学定員、収容定員>

学科名称	コース名称	入学定員	収容定員
先進医療科学科	生命健康科学コース	20人	80人
	臨床医工学コース	15人	60人
合 計		35人	140人

②定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

学校基本調査や本学アドミッションセンターの統計データにより、本学科と同系列の学部・学科の志願動向を確認したところ、直近5年間の同系列学部・学科への総志願者数は、平成28年度の115,828人から令和2年度の135,786人へと年々増加しており、令和2年度の総入学者数28,372人に対して志願者数は4.8倍となっていた。全国的な同系列

学部・学科の人気の高さが伺える結果であった。また、本学科への入学が期待される 18 歳人口の推移に関しては、令和 2 年度を 1 とした時の令和 14 年度の指数は全国が 0.877 であるのに対し、大分県が 0.883、大分県を含む九州が 0.932 であり、全国より減少幅が少ない。一方、大分県に所在する大学への入学者の出身地については、令和 2 年度の入学者総数 3,207 人のうち大分県出身者が 1,106 人と最も多く、大分県を含む九州出身者は 2,119 人と全体の 66.1%を占める。本学入学者についても同様の傾向であり、令和 3 年度の本学入学者総数 1,086 人のうち大分県出身者が 469 人と最も多く、大分県を含む九州出身者は 881 人と全体の 81.1%を占める。従って、本学科の入学定員 35 人については、同系列の学部・学科の志願者の増加傾向及び本学入学者の出身地における 18 歳人口推移の動向から、全国的にみても十分な需要があると見込める。

(資料 1 「全国と同系列学部（学科）への志願動向」)

(資料 2 「18 歳人口の推移」)

(資料 3 「大分県の大学への都道府県別進学者」)

続いて、本学科に対する具体的なニーズを把握するため、本学への進学者が多く偏差値が高い大分県内の高校 7 校を直接訪問し、予備調査を実施した。各校の校長及び進路指導担当教員と面談し、本学科の設置主旨とその概要について説明、質疑応答を行い、後日アンケート調査用紙に記入し返送してもらうよう依頼した。「貴校の生徒に大分大学医学部先端医療科学科への進学を薦めたいか」という旨の質問に対し、「生命健康科学コース」については「薦めたい」が 5 校、「まあ薦めたい」が 2 校であった。また、「臨床医工学コース」については「薦めたい」が 4 校、「まあ薦めたい」が 3 校であった。いずれの高校からも本学科の設置に対する否定的な意見はなかった。

なお、本調査実施時点では「先端医療科学科」の名称を用いていたが、その後、「先進医療科学科」に変更した。

(資料 4 「大分大学医学部新学科に関する高校向けアンケート結果」)

上記の予備調査において、訪問先の全ての高校から本学科への前向きな期待が寄せられたため、調査対象を拡大し、第三者機関である「株式会社進研アド」への委託による「大分大学医学部 先端医療科学科（仮称）」設置に関するニーズ調査を実施した。

(資料 5 「大分大学『医学部 先端医療科学科』（仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【高校生対象調査】」)

(資料 6 「ニーズ調査リーフレット」)

調査対象は、大分県内の普通科・総合学科を有する理系クラスのある高等学校のうち 17 校及び大分県外の高等学校で本学の理系既存学部・学科に、過去 5 年間の入学者数の合計が 10 名以上の高等学校のうち 12 校の合計 29 校を抽出し、学科開設予定年度である令和 5 年度に大学 1 年生となる、令和 3 年度現在の高校 2 年生を対象にアンケート調査を実施した。

調査期間は、令和3年11月1日から令和3年11月30日までとし、調査方法は、事前に本学から各対象校へ調査への協力を依頼し、了解を得た後、第三者機関からアンケート調査用紙を送付し、本学科の概要をリーフレットで提示した上で、高等学校内でホームルーム等を利用して、高等学校教員による配付、回収を行った。調査内容については、本学科、生命健康科学コース及び臨床医工学コースの特色についてそれぞれ説明し、それらの特色に対して「とても魅力を感じる」、「ある程度魅力を感じる」、「あまり魅力を感じない」、「まったく魅力を感じない」の選択肢から回答を選んでもらう方式とした。

調査結果の回収状況は、対象とした29校（配布数4,147）から、3,093人の回答が得られ、回収率は74.6%であった。

調査結果によると、回答が得られた3,093人のうち、本学科の特色「日々進歩する医学・医療に対応し、リサーチマインドを持ち科学的根拠に基づく問題解決能力がある医療技術者や研究者を目指す人材を養成します。」及び「先端科学技術を医療に応用し、健康寿命の延伸と医療の新しい基盤技術の教育・研究・実践を行う人材を養成します。」に対する魅力度について、「とても魅力を感じる」または「ある程度魅力を感じる」と回答した人はそれぞれ89.8%及び88.8%と、いずれも9割近くに及んだ。一方、「まったく魅力を感じない」と回答した人はゼロであった。

さらに、コースごとの特色について、「とても魅力を感じる」または「ある程度魅力を感じる」と回答した人は、「生命健康科学コース」の特色である「遺伝子を含む細胞内の生命現象に精通し、生活習慣病や癌化や老化のメカニズムの探求ができ、スポーツ医学や健康増進に寄与する人材を養成します。臨床検査技師の国家試験受験資格が取得可能です。」については81.9%、「臨床医工学コース」の特色である「生体内の電気・力学現象や工学に精通し、人工臓器や福祉機器、医療用ロボット等の研究開発に寄与する人材を養成します。臨床工学技士の国家試験受験資格が取得可能です。」については80.7%であり、受験生からの関心の高さがうかがえる。こちらの質問事項についても「まったく魅力を感じない」と回答した人はゼロであった。

また、回答が得られた3,093人のうち、本学科を「受験したいと思う」と回答した人は516人（16.7%）であった。この受験意向者516人のうち、本学科への入学意向は次のとおりであり、2コースとも、入学定員数を13～14倍程度上回る入学意向者数がみられた。

<本学科への入学意向（本学受験意向者516人中）>

コース名称	入学意向		入学定員	倍率
生命健康科学コース	289人	56.0%	20人	14.5倍
臨床医工学コース	197人	38.1%	15人	13.1倍
計	486人	94.1%	35人	13.9倍
その他	30人	5.8%		
合計	516人	100.0%		

なお、前述したとおり、今回の調査は、大分県内の普通科・総合学科を有する高等学校については、全体の約半数にしか実施していない。また、大分県外の高等学校についても、12校にしか実施していないため、実際は、上記をさらに上回る入学意向が見込まれる。

以上のことから、本学科においては、十分な志願者数を確保し、定員を充足できると判断される。

③学生納付金の設定の考え方

他の学部（教育学部、経済学部、理工学部、福祉健康科学部）及び医学部の他の学科と同様に、「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」に定める標準額と同額に設定する。

（２）学生確保に向けた具体的な取組状況

本学では、令和２年６月に本学科の設置構想について記者会見を実施し、社会への公表を行った。この公表以降、本学科の認知度向上を図り、学生確保につなげるため、以下の取組を推進している。

①オープンキャンパス

本学では、毎年８月初旬にオープンキャンパスを開催しており、新型コロナウイルス感染症の影響があった令和２年度、３年度より前は、全学で毎年４,０００人程度が参加者している。令和４年度も医学部に参加した高校生に医学部の模擬講義、実験室の見学や入試説明などを行い、学生確保に努める。

②入試懇談会

本学では、毎年７月に、多数の受験生を本学に送り出している高等学校や予備校の進路指導担当教諭等を対象とした入試懇談会を開催しており、本学科の従来になかった斬新かつ特色のある教育等について説明することにより、その魅力をPRすることができ、学生確保の効果が期待できる。

③高校訪問

令和３年４月に、県内の高等学校を訪問し、高校生や企業を対象とした本学科の設置に関するニーズ調査と併せて、本学科の紹介を行った。今後は、大分県内に限らず、県外の高等学校（本学に志願実績のある高等学校等）を訪問し、直接、高校生や教諭に対して、本学科の従来になかった斬新かつ特色のある教育等について説明することにより、本学科の魅力をPRすることができ、学生確保の効果が期待できる。

④説明会の開催

令和4年4月に認可申請中であることを前提とした入試説明会を計画している。対象は、大分県内高等学校の進路指導担当教員とし、本学科の概要、入試実施方法を説明し、質疑応答を行う。設置申請に向けてのニーズ調査等により受験希望者がいることは把握できており、早めに受験準備に取りかかれるよう情報提供するとともに、説明会により進路指導担当教員を通じて新たな受験希望者の確保が期待できる。

また、例年7月に九州地区の国立大学が集まって開催する進学説明会や県内外で複数回開催される受験産業主催の進学説明会に参加して学生確保に努める。

⑤リーフレット、広報誌等各種媒体による広報

令和4年度初めに、本学科を紹介するリーフレットを作成し、県内の公私立の高等学校に配布し、更にオープンキャンパスや説明会等で配布する予定。また、本学が年2回発行し、県内の高校をはじめ県外の高校や関係機関等へ広く配布している広報誌「BUNDA I O I T A」において、本学科PRのための特集コーナーを設ける予定。その他、新聞や受験雑誌への掲載や、ビジネス誌の大学関連企画に併せて掲載することにより、宣伝効果の増大が期待できる。

⑥ウェブサイトによる広報

令和4年度初めに、本学のホームページに、本学科のホームページを設け、理念や概要等について紹介する予定。本学ホームページは1日約5,000ページビューがあり、ホームページでの広報は、かなりの効果が期待できる。

2 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学科では、医学・医療の基盤を支え、自然科学と社会科学の融合による「総合知」を創造し、イノベーション創出に発展させることのできる融合人材を育成することを目的としている。本学科の学生は、領域・業種の垣根を超えた情報交換と交流の橋渡しができる能力を有し、大学・企業研究者、医療従事者、起業家、医療事業経営マネジメントを行える人材となり、進化した医工連携、産学官連携の将来の担い手として活躍することが期待される。

本学科に、生命健康科学コース、臨床医工学コースの2コースを置き、それぞれ特に必要な人材育成に注力する。

1) 生命健康科学コース

人の生命現象、健康と疾病及び臨床検査に関する広範な知識と技能を身につけ、それらを統合し、生命医科学の発展及び健康寿命の延伸に活用できる。遺伝子を含む細胞内の生命現象に精通し、生活習慣病や癌化や老化のメカニズムの探求ができ、身体機能の向上や

健康増進にも寄与することができる人材。

2) 臨床医工学コース

健康と疾病及び医工学、医療機器研究開発に関する広範な知識と技能を身につけ、それらを統合し、医学・医工学の発展及び健康寿命の延伸に活用できる。生体内の電気・力学現象や工学に精通し、人工臓器や福祉機器、医療用ロボット等の研究開発に寄与することができる人材。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

①社会的、地域的な人材需要の動向

わが国は、平均寿命、健康寿命ともに世界トップクラスの「超高齢社会」を迎えているが、平均寿命から健康寿命を引いた期間も10年余と決して短いとは言えず、高齢者のQOLの向上と共に健康寿命の延伸が極めて重要な目標となっている。大分県においても「健康長寿・生涯現役社会の構築～健康寿命日本一～」という目標を掲げ、健康寿命延伸のため啓発活動を活発に行っているが、全国平均を上回る速さで進む高齢化のため、医療・福祉を担う人材の絶対数が不足している状況にある。また、近年の急速な医学・医療技術の進歩や内外の環境の激変に伴い、単に医療・福祉を人に対して直接実践する人材よりも、医学・医療の基盤を研究し、新たな知見を創造する人材の不足がより深刻化している。例えば、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにおけるPCR検査の例ひとつ考えても、検査体制の充実には、遺伝子検査を正しく理解し正確に操作を行える優秀な臨床検査技師だけでなく、PCR検査キットの開発、検査機器、自動化のためのロボット開発を実践できる高度な能力を持つ人材が決定的に不足していることが明白となった。さらに、突然顕在化する医療機関の様々なリスクに即応できるマネジメント能力を持った人材も不足している。新型コロナウイルス感染症パンデミックは、瞬く間に国境を越え全世界に広がった。感染症をはじめとする国際的な保健衛生リスクにグローバルな視点を有する人材も十分ではない。

従って、これからの医療業界には、健康寿命に影響を与える因子の改善や、医療資源の適切な配分・活用の必要性、ゲノム医療の進歩に伴う精密医療、再生医療の急速な発展、さらにはAI・ロボティクスの進歩などにも対応でき、新たな高度医療技術を持つ人材が求められている。グローバル社会において、国際感覚を有する医療人材育成も必要とされる。さらには、医療・福祉の基盤を研究し、新たな知見を創造するイノベーティブな人材育成も急務である。

また、このような新しい医療技術・医療機器の開発においては、医工連携、産学官連携によるイノベーションも重要となるが、特に医工連携に関しては、これまで多くの大学や学会等で重要性が叫ばれ、推進事業がなされてきたものの、そこで行われたことは、専門分野の技術と知識の提供、あるいは専門領域内での分担と協力という旧来の手法であり、

新たな社会・医療のニーズに対しては限界があった。進化した医工連携、次世代の医工連携、産学官連携を目指すには、業種間の垣根を超え、異業種・異分野の技術や知識を習得し、異なる世界の価値観を理解することにより、異業種・異分野を融合するに至って初めてこの進化した医工連携を成し得ると考えられ、幅広い領域の知識と技術を習得し、多領域・業種の垣根を超えた情報交換と交流の橋渡しができる人材が必要とされている。

特に東九州地域では、大分県・宮崎県、地場産業、地域の大学との産学官連携を強化し医療機器開発を進めることで医療産業の集積と地域の活性化及びアジアへ貢献できる拠点形成を目指した「東九州メディカルバレー構想事業」を展開しており、本学はその「知の拠点」として参画している。本事業は2011年12月に国の総合特別区域に指定され、2022年4月から第3期計画へ進む予定であり、大分県においても次期計画に本学と連携した「融合人材育成」を到達目標の一つに掲げている。幅広い領域の知識と技術を有し多領域・業種を横断的に橋渡しできる融合人材の育成を行い、東九州メディカルバレー構想の将来の担い手となって、医療機器開発の推進に貢献するのみならず、我が国における進化した医工連携、産学官連携のリーダーとして活躍できる人材を、本学科が輩出して行くことに大きな期待がかかっている。

(資料7「要望書」)

②卒業後の進路に関する調査結果の概要

上記の社会的背景及び地域的な人材需要の動向を踏まえ、令和2年度の学校基本調査において、本学科と同系列の学部・学科の総卒業生数21,465人の進路状況を確認したところ、就職者18,670人のうちの17,925人が無期雇用労働者として就業しており、この分野での就職状況は全国的にも良好であった。また、2012年度から2020年度までに厚生労働省が実施した職業安定業務統計によれば、本学科の臨床検査技師・臨床工学技士の資格を取得しない卒業生が該当する「開発技術者」においては、有効求人数149,569人～241,136人に対し、有効求職者数は94,355人～213,829人、有効求人倍率は1.13倍～2.31倍であり、特に直近5年間では平均1.99倍とミスマッチを生じており、この分野における人材不足の深刻さが伺える。

(資料8「同分野の全国的な就職状況」)

(資料9「開発技術者の有効求人数、有効求職者数と有効求人倍率」)

また、大分県内にはこれまで本学科と同系列の学部・学科は存在せず、医療系専門学校のみ存在するが、令和2年度は、その卒業生732人のうち668人が就職しており、就職者数及び就職率ともに良好であった。また、本学理工学部では、多くの理工系技術者を輩出しているが、例えば令和3年度における本学理工学部卒業生382人(うち156人は大学院進学)、就職希望者204人に対し、企業等からの総求人数は30,706人であった。求人倍率は150倍と極めて大きな数字となっており、本学が養成する理工系技術者への期待と需要の高さが伺える。後述するアンケート調査の結果等から、本学科が育成する医学、理工学、生命科学、医療マネジメントの多領域にわたる高度な能力を有する融合人材への需要は入学定

員を大きく上回ることが見込まれるため、本学科の卒業生の進路状況についても極めて良好なものと考えている。

(資料 10「令和 2 年度大分県新規学卒者実態調査 統計表」)

(資料 11「大分大学理工学部就職率」)

一方、他大学における同系列の学部・学科の進路・就職状況をみると、臨床検査技師・臨床工学技士の資格が取得できない医学部生命科学科においては、例えば九州大学医学部生命科学科の令和 2 年度卒業生 16 人のうち大学院進学者は 14 人 (87.5%)、残り 2 人が就職であった。平成 28 年度から令和 2 年度までの累計でも、九州大学医学部生命科学科の卒業生の 87%が大学院進学、残り 13%が就職となっており、大多数が大学院に進学していた。鳥取大学医学部生命科学科の卒業生の進路においても、平成 28 年度から令和 2 年度までの累計で 82%が大学院進学、10%が就職、8%がその他となっており、いずれの大学においても卒業生の 80%以上が大学院に進学している。また、鳥取大学医学部生命科学科においては大学院卒業後の就職先が公開されており、臨床検査技師等の国家資格を取得せず就職しているものの、製薬・医療関係企業に 41%、バイオ関係企業に 21%、教育・研究機関に 20%、医療機関に 4%、食品関係企業に 3%、その他が 11%となっている。これらの就職先企業の多くが東証プライム上場企業であり、臨床検査技師等の資格を持たずに大学院進学した場合においても、研究者・開発技術者としての需要は大きいものと考えられる。

(資料 12「医学部生命科学科卒業生の進路等」)

(資料 13「鳥取大学医学部生命科学科卒業生・修了生の進路」)

また、筑波大学医学群医療科学類では、国際医療科学コースにおいて授業科目の選択により臨床検査技師の国家試験受験資格が得られるものの、必修科目ではないという点で本学科に近いカリキュラムとなっているが、令和 2 年度の進路状況によれば卒業生 38 人のうち 21 人 (57%) と過半数が大学院に進学、16 人が就職、1 人がその他となっており、やはり大学院進学者が過半数を占めている。なお、この 38 人の卒業生のうち 33 人が臨床検査技師の国家試験を受験しており、受験資格の取得が必修ではなく大学院進学者が 6 割近い進路状況においても、国家資格だけは取得しておこうと考える学生が大多数であることが読み取れる。

(資料 14「筑波大学医療科学類の卒業者数、臨床検査技師国家試験状況と進路状況」)

一方、全国国立大学で検査技術科学専攻の学部・学科を持つ 10 大学における進路動向をみると、これらの学部・学科卒業生のほぼ全員が臨床検査技師国家試験の受験資格取得者と考えられるが、卒業生の平均 44%が大学院に進学しており、臨床検査技師の資格取得を主目的とする学部・学科においても大学院進学者が最も多い。次いで医療機関への就職者が平均 40%と多く、これは基本的に臨床検査技師の資格取得者に対する需要と思われる。残り 12%が企業・公務員への就職、5%がその他となっている。

(資料 15「類似する学科専攻を有する他大学学生の卒業後の進路・就職状況」)

このような他大学における同系列の学部・学科の状況から、本学科の卒業生も大半が大学院に進学し研究者等を目指す想定しており、卒業後直ちに就職を希望する者は少数と見込んでいるが、万一卒業生全員が就職を希望した場合でも対応可能かについて検討を行った。

まず、大分県内主要5病院（大分県立病院、大分赤十字病院、アルメイダ病院、大分中村病院、大分循環器病院）に対し本学科設置に関するアンケート調査を実施した。「生命健康科学コース」の育成人材に関連して、「臨床検査分野の専門知識があり、臨床検査データの精度管理、検査業務改善、学術活動を行う人材が十分育成されていますか？」の質問に対し、5病院すべてから「まだ十分とはいえない」との回答があった。また、「臨床医工学コース」の育成人材に関連して、「医療機器、生命代行装置等の管理、取り扱いに関しての専門知識があり、これらの医療機器安全管理を行う人材は十分育成されていますか？」の質問にも、5病院すべてから「まだ十分とは言えない」との回答があった。従って、本学科が養成する「深い教養と豊かな人間性を基盤とし、先端的かつ最新の医療科学の知識と技術を学修し、医学・医療の基盤を支え、専門領域を超える諸課題に挑戦し、さらに発展させることのできる人材」は、県内の主要病院が求める人材像と重なり、県内の医療人材需要に応えるものになっていると考えられる。

続いて、本学科卒業生の主な就職先として考えられる企業・病院等の具体的なニーズを把握するため、第三者機関である「株式会社進研アド」への委託による「大分大学『先端医療科学科（仮称）』設置に関するニーズ調査」を実施した。

(資料 6「ニーズ調査 先端医療科学科リーフレット」)

(資料16「大分大学『医学部 先端医療科学科』(仮称)設置に関するニーズ調査結果報告書【企業・事業所対象調査】」)

調査対象は、大分県・九州地方を中心とした全国の企業、研究所、病院の全340施設とした。本学科では、これまで本学で育成していなかった新たな人材（融合人材）を育成するため、本学からの採用実績がない企業等も調査対象に含めている。

調査期間は、令和3年11月1日から令和3年11月30日までとし、調査対象とした施設へ、第三者機関からの郵送による調査票の送付及び回収を行った。

調査結果の回収状況は、対象とした340施設のうち98施設から回答が得られ、回収率は28.8%であった。回収率は九州圏に限れば31.6%（送付先247中78回答）、うち本学の所在地である大分県に限れば39.7%（送付先146中58回答）であった。回答企業等の本社所在地は、大分県が59.2%を占め、最も多い。次いで東京都が16.3%、福岡県が12.2%であった。なお、回収率が伸び悩んだ理由としては、あまり大きな規模ではない企業や独立した検査部等が無い病院など、高度な能力を有した人材を求めている企業等や、本学からの採用実績がない遠隔地の企業等からの回収率が低調であったためと考えられる。

調査結果によると、回答が得られた98施設のうち、本学科の特色（学びの内容、養成する人材像）に対する魅力度（「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業等の合計値）は、9割近くにのぼり、さらに、コースごとの社会的必要性について、「必要だと思う」と回答した施設は、生命健康科学コースでは94.9%、臨床医工学コースでは89.8%であり、本学科で養成する人材への社会的需要がうかがえる。

また、回答が得られた98施設における、本学科卒業生への採用意向及び採用想定人数は次のとおりであり、2コースとも、入学定員数を4倍程度上回る結果となった。本学科卒業生うち、大学院に進学する人もかなりの数にのぼると想定されることから、実際の就職希望者に対する採用想定人数の倍率はさらに大きいと考えられる。

<本学科卒業生の採用意向及び採用想定人数（回答のあった98施設中）>

コース名称	採用意向		採用想定 人数/年	入学 定員	倍率
生命健康科学コース	65施設	66.3%	87名程度	20人	4.4倍
臨床医工学コース	59施設	60.2%	76名程度	15人	5.1倍

生命健康科学コースの卒業生を「採用したいと思う」と答えた65件の企業等に、同コース卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は87名で、予定している入学定員20名全員が就職を希望した場合でも4倍以上上回っている。このことから、生命健康科学コースについての安定した人材需要があることがうかがえる。

また、臨床医工学コースの卒業生を「採用したいと思う」と答えた59件の企業等に、同コース卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は76名で、予定している入学定員15名全員が就職を希望したとしても5倍以上上回っている。このことから、臨床医工学コースについても安定した人材需要があることがうかがえる。

なお、本調査では、本学科卒業生の全員が臨床検査技師・臨床工学技士の受験資格を得ている訳では無いことを明示していなかったため、類似する学部学科を有する他大学における卒業生の進路動向及び全国的な業界の人材需要状況の分析も加味し、上記資格を取得しない卒業生の需要についても検討を行った。

本調査に回答した98施設のうち76施設が医療機関であったが、うち48施設(63.2%)が生命健康科学コースの卒業生を「採用したいと思う」と回答しており、その採用予定人数の合計は45人であった。これら医療機関における採用予定者については、基本的に臨床検査技師の資格取得者を対象としていると思われる、資格取得者に対する需要は十分にあるものと考えられる。一方、医療機関以外の企業等において臨床検査技師資格は必ずしも必要とされないため、資格を取得しない卒業生の就職先は医療機関以外の施設と想定

される。医療機関以外で生命健康科学コース卒業生の採用意向を示した企業等は 17 施設であり、それらの採用人数の合計は 42 人であった。生命健康科学コースの入学定員 20 人の全員が臨床検査技師の資格を取得せず、かつ全員が大学院にも進学せず就職を希望したと仮定し、さらに本調査に回答した施設に限った場合でも、入学定員の倍以上の需要が見込まれる。

同様に、臨床医工学コースにおいても、臨床医工学コースの卒業生を「採用したいと思う」と回答した医療機関 42 施設における採用予定人数の合計は 40 人であり、これは基本的に臨床工学技士資格取得者に対する採用と思われる、資格取得者の需要は十分にあるものと考えられる。一方、医療機関以外の企業等で臨床医工学コース卒業生の採用意向を示した 17 施設での採用人数の合計は 36 人であった。従って、臨床医工学コースの入学定員 15 人の全員が臨床工学技士の資格を取得せず、かつ全員が大学院に進学せず就職を希望したと仮定し、本調査に回答した施設に限った場合でも、やはり入学定員の倍以上の需要が見込まれると考えられる。

上述の他大学における類似の学部・学科の卒業生の進路動向を踏まえると、本学科においても入学定員 35 人のうち、少なくとも過半数が大学院に進学するものと想定される一方、臨床検査技師・臨床工学技士の資格を取得し、医療機関等に就職する卒業生はさほど多くないと考えられ、資格を取得せず企業等への就職を希望する卒業生も若干名と見込まれることから、本調査の回答から算出される医療機関以外の企業からの生命健康科学コース卒業生の採用予定人数の合計 42 人、臨床医工学コース卒業生の採用予定人数の合計 36 人、総計 78 人は、資格を取得せずに就職を希望する卒業生の数に対して十分であると考えられる。資格取得者に対する医療機関からの採用予定人数も十分な数字と考えられるため、いずれの状況においても卒業生に対する需要の不足は生じ得ないものと考えられる。

(資料 17 「大分大学医学部先進医療科学科の卒業生に対する採用意向」)

以上、社会的、地域的な人材需要の動向と卒業後の進路に関する調査結果を総合的に見て、また、卒業後に大学院進学を希望する者もかなりの数にのぼると想定されるため、本学科における卒業後の進路は安定的に確保できると判断される。